

3つの有効成分が、新しい時代のニーズ 高性能・省力性・低コストに応えます。

ピラクロニル

ノビエを始め広葉・カヤツリグサ科雑草等、幅広いスペクトラムを有しています。
SU抵抗性雑草に対しても幅広く、優れた効果を示します。

各種雑草への除草効果

1999～2007年 協友アグリ(株)社内試験まとめ

	一年生雑草												
	タイヌビエ	イヌビエ	ヒナガヤツリ	ホタルイ	コナギ	ミスアオイ	アゼナ類	キカシグサ	ミゾハコベ	ホリヒミソギ	タカサブロウ	タウコギ	クサネム
除草効果	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
枯殺葉令	2葉期	2葉期	始期	1葉期	2葉期	2葉期	1対期	1対期	1対期	1.5葉期	1葉期	始期	1葉期

	SU抵抗性雑草						多年生雑草		その他
	ホタルイ	コナギ	ミスアオイ	アゼナ類	アゼトウガラシ	オオアブメ	ミスガヤツリ	アシカキ	アオウキクサ
除草効果	●	●	●	●	●	●	○	□	●
枯殺葉令	1葉期	2葉期	2葉期	1対期	1対期	1対期	—	—	始期

試験薬量：20g a.i./10a

残草量：対無処理比 ●：0～t% ○：～10% ◯：～20% □：～40% △：～60% ×：～61%以上

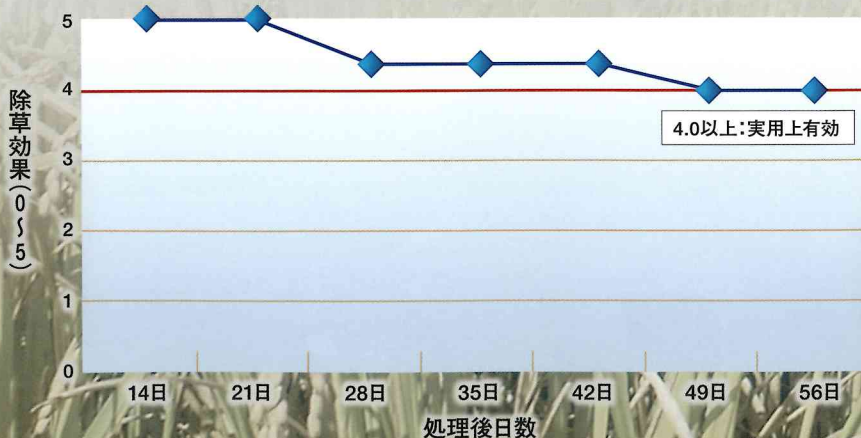
枯殺葉令：ピラクロニル単剤としての枯殺葉令 —：完全枯死には至らないが抑制する

オキサジクロメホン

ノビエに対して長い残効性を示します。

ノビエへの残効性

2007年 全農営農技術センター



試験規模：ポット試験

薬量：3g a.i./10a

播種：薬剤処理後7日間隔で所定日に

催芽種子を播種

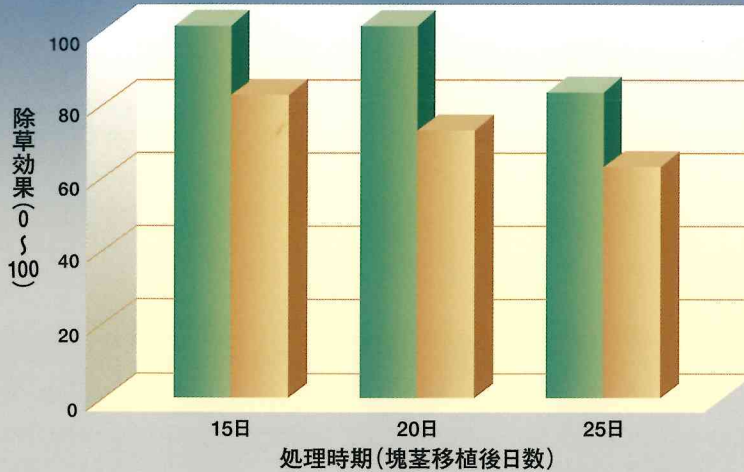
調査：播種28日後観察調査

イマズスルフロン

多年生雑草を始め、幅広い雑草に高い効果を示します。

ミズガヤツリへの効果

1990年 住友化学(株)社内試験



■ : イマズスルフロン
■ : 対照剤A

試験規模: 圃場試験
 薬量: イマズスルフロン...9g a.i./10a
 対照剤A...7.5g a.i./10a
 塊茎移植: 催芽塊茎を土壌表面に置床
 処理: 移植後15日(草丈10cm)
 移植後20日(草丈20.4cm)
 移植後25日(草丈26.7cm)
 調査: 各処理時期の56日後に観察調査

サラブレッドKAIの殺草スペクトラム

雑草名	ノビエ	カヤツリグサ	コナギ	アゼナ類	その他広葉	マツバイ	ホタルイ	ウリカワ	ミスガヤツリ	ヒルムシロ	セリ	藻類
移植時	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ノビエ2葉期	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ノビエ2.5葉期	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

除草効果 ○:極大 ○:大 △:中 ×:小~無

有効成分の物理化学的性状

一般名	ピラクロニル	オキサジクロメホン	イマズスルフロン
化学名	1-(3-クロロ-4,5,6,7-テトラヒドロピラゾロ[1,5-a]ピリジン-2-イル)-5-[メチル(プロパ-2-イニル)アミノ]ピラゾール-4-カルボニトリル	3-[1-(3,5-ジクロロフェニル)-1-メチルエチル]-3,4-ジヒドロ-6-メチル-5-フェニル-2H-1,3-オキサジン-4-オン	1-(2-クロロイミダゾ[1,2-a]ピリジン-3-イル)スルホニル-3-(4,6-ジメトキシピリミジン-2-イル)尿素
化学構造式			
性状	白色固体	白色結晶	白色結晶性粉末
融点	93.1°C~94.6°C	147°C~149°C	198.0°C
水溶解度	50.1ppm(20°C)	0.15ppm(20°C)	155.6ppm(20°C)
蒸気圧	1.9x10 ⁻⁷ Pa(25°C)	16x10 ⁻⁸ Pa(25°C)	6.3x10 ⁻⁴ Pa(25°C)
脂溶性	n-オクタノール水分分配係数 2.18(25°C)	n-オクタノール水分分配係数 3.7(25°C)	n-オクタノール水分分配係数 1.59(22°C)
人畜毒性	普通物*	普通物*	普通物*
急性経口毒性	ラットLD50 ♂4,979mg/kg ♀1,127mg/kg マウスLD50 ♂1,044mg/kg ♀881mg/kg	ラットLD50 ♂♀>5,000mg/kg マウスLD50 ♂♀>5,000mg/kg	ラットLD50 ♂♀>5,000mg/kg マウスLD50 ♂♀>5,000mg/kg
急性経皮毒性	ラットLD50 ♂♀>2,000mg/kg	ラットLD50 ♂♀>2,000mg/kg	ラットLD50 ♂♀>2,000mg/kg
魚毒性	コイ LC50>28ppm(96hr) ミジンコ EC50>16.3ppm(48hr)	コイ LC50>8.6ppm(96hr) ミジンコ EC50>9.7ppm(48hr)	コイ LC50>100ppm(96hr) ミジンコ EC50>100ppm(48hr)
含量	1キロ粒剤	2.0%	0.9%
	フロアブル	3.8%	0.57%
	ジャンボ	5.0%	0.75%

*毒物及び劇物に該当しないものを指している通称

サラブレッドKAIの上手な使い方 (移植水稲)

代かき 田植 5日 10日 15日 20日 30日



ノビエを始めSU抵抗性雑草や
難防除雑草に幅広く効く!

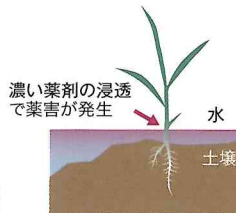
初期除草剤との組合せで田植後30日まで使える

田植同時処理にも対応!

田植同時処理での注意事項

田面の均平度を良くする!

代かきを丁寧にを行い、高低差をできるだけ無くしてください。薬剤が落ちた所の水深が浅いと、拡散が妨げられ、薬剤が高濃度で稲に吸収されやすくなります。



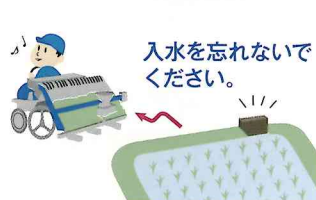
浅植え、浮き苗は禁物!

田植機の速度が速すぎたり、落水が充分でない状態で田植を行うと、浅植えや浮き苗が生じ、根に薬剤が触れやすい状況となります。注意して丁寧に田植作業を行ってください。



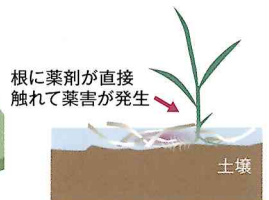
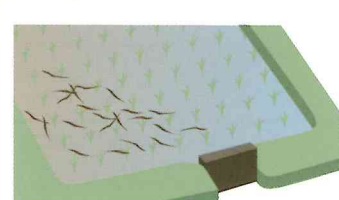
散布後は速やかに入水!

田植後は速やかに入水し、田面露出が無いようにしっかりと湛水してください。田植後、速やかに入水しないと薬剤が拡散しにくくなり、薬害や効果不足の原因となります。特にフロアブル剤は、露出面に落ちたまま放置すると固結し、拡散しなくなるので注意してください。



稲ワラ残渣などにも注意!

圃場に稲ワラや麦ワラが残っていると、風下の畦畔ぎわに吹き寄せられ、その上から植え付けることとなります。結果的に植え付け不良で、薬剤が根にふれやすい状態となります。このような残渣がある場合は、取り除いてから田植作業を行ってください。



極端な砂質土壌、減水深の大きな圃場(減水深3cm/日以上)土の戻りが悪い圃場は要注意!!

このような水田では植え戻りが悪く、根が露出しやすくなります。また縦の浸透が強く、除草剤が根に触れやすくなります。このような圃場では田植同時処理を避けてください。



3剤型揃って、
使いやすくなりました。